

2023年4月10日

コスモエネルギーホールディングス株式会社
取締役会 御中

株式会社シティインデックスイレブンス
代表取締役 福島啓修



拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

4月7日付貴社書簡（以下「貴社書簡」といいます。）を拝見しました。弊社は、貴社の株価が依然としてPBR1倍を割れているにもかかわらず、貴社が再生エネルギー事業子会社の上場について取締役会で議論することすら否定されたことを大変残念に思います。

貴社書簡では、弊社の提案内容について様々な批判をされていますが、弊社は、リスクをとって貴社の株式を取得し、共同保有分を合わせると貴社の株式を20%も保有しているのですから、株主価値向上に資さない提案を行うはずがありません。弊社が貴社に求めるのは、他の株主と同様、貴社の中長期的な企業価値・株主価値の向上です。貴社は新中期経営計画について弊社に説明する機会すら設けていませんが、貴社経営陣が真剣に株主価値向上を目指すというのであれば、弊社に対する批判を繰り返すことに躍起になるのではなく（貴社の批判は的外れであると考えておりますが、この点についての議論は貴社の株主価値向上に資するものではないので、ここでは差し控えます。）、大株主が株主価値向上に資すると考えて示している提案に真摯に耳を傾け、大株主と建設的な対話を行うことが、株主価値向上に資するのではないのでしょうか。初めから耳を塞ぎ、対話を拒絶することが貴社の株主価値の向上に資するとは到底思えません。

弊社は、最も重要なことは、再生エネルギー事業の今後の経営方針について、株主総会で議論され、多くの株主の皆様が考えるあるべき姿を実現することであるとと考えております。また、弊社は、貴社の多数の株主が新エネルギー事業子会社の上場を望まないのであれば、その実現に拘るものではありません。貴社株主の中には、貴社経営陣と同じご意見の方もいらっしゃると思いますし、また、弊社と同じご意見を持つ株主もいらっしゃると思います。そのような中で、再生エネルギー事業をどうしていくことが貴社の株主価値向上に資するかについて、経営陣と株主が対話をし、取締役会でも真摯に議論することが大事であり（「2050年カーボンネットゼロ」についても対話を行い、議論をすべきでしょう。）、貴社があくまでも対話や議論を望まないということであれば、6月開催予定の貴社定時株主総会に向けて、「再生エネルギー事業子会社の上場について取締役会で真摯に議論し、その議論の結果を公表すること」を公約とする社外取締役1名選任の株主提案をさせていただきたいと考えております。貴社が弊社との面談による建設的な対話を望まれる場合には、4月12日までにご連絡をいただけますようお願いいたします。

敬具